

第12回研究会を7月17日(金)に
県立図書館小研修室で行いました。

5月に予定していた

のですが、コロナ自粛の
ために延期していたも



のです。テーマは「女性の初期の職業として
の看護婦」にしたので、関心の強い方のみ
の参加で10名でした。

今回は終戦直後に鳥取赤十字の救護看護婦
養成所を卒業された元保健婦の田中郁子さん
に当時の思い出を語っていただきました。そ
の内容は左ページに掲載しています。

さて、研究会では江戸から明治にかわる戊
辰戦争の時から、従軍看護としての看護婦が
職業看護婦として出現したことを発表した。
ここで、再確認を2点あげる。

① 東大看護婦養成所の明治31年に鳥取出身
の「河崎志保」という人がいたということ。

看護史研究家の高橋政子(鳥取市出身)が高野京
を調べた時に「同級生に鳥取出身の川崎とい
う婦長がいた」と語るのを聞いているのだ。鳥取
県内のどこの人か分かれれば新情報です。

② 東大病院はいつできたか。小石川療養所と
の関係はないのか。これについては、高橋政子
著『写真でみる日本近代看護の歴史』の中にあ
った。

帝大病院の最初は、戊辰戦争時、横浜の軍陣病院
が、東京下谷の旧藤堂邸に移って「大病院」となっ
たものである。これが、1876(明治9)年12月に本郷本
富士 旧前田邸(現在地)に移った。

とある。小石川養生所は、ネットによれば、現
在の小石川植物園の地に1722(享保7)年
開設され、40名収容した。明治政府の漢方医廃
止の方針によって間もなく閉鎖され、薬園と養
生所施設は文部省の管轄となり、明治10年東京
帝国大学に払い下げられ、最終的に理学部附属
植物園となっている。以上。

研究会では今年 紙芝居作成
に取り組んでいます。

この「碧川かた研究会」は三年目になり、
県東部・中部・西部で会をしているが、更
にもっと広め、後世まで残すにはどうした
らよいか。県内の公共図書館の紙芝居の棚
に1冊おいてもらうのがよいのではない
かと考えました。誰でも利用できるのです。
まず絵で、絵が描ける人は少ないのです。
たまたま研究会員の知り合いで描く人が
いたのです。文章は何とか考えるところで、
研究会を開くことのできないこのコロナ
禍の中、数人が集まって練り上げました。
印刷会社に持ち込むのは1月、それまでに
仕上げようと実行委員会を組み、進めてい
ます。
来年の今頃は近くの図書館でご利用い
ただけます。
(四井幸子)

ホームページからこの会報が見れます

「鳥取県を舞台に！歴史大河ドラマを推進する会」と入力してホームページを開き、トップページにある「鳥取大河だより」のタブをクリックしてください。今までの会報すべてが載っています。

91歳の田中郁子さん

戦火から戦後にかけての
看護教育を語る

私は、小学校に昭和10年4月入学しました。低学年の時、支那事変が始まりましたが、普通に勉強はできました。県立根雨高等女学校の頃、農家の男性が兵隊に行き人手が足りなくなり、日野郡内の農家に農繁期など勤労奉仕として田植え、稲刈り等お手伝いに行くことが年々多くなりました。女学校4年生になったときに、学徒動員令が出て、大学生・高校生が軍需工場で働くことになり、根雨高女は米子市にあった軍需工場「日本ソルダー」で働きました。

昭和20年3月、工場を休み学校に戻り卒業式に出ましたが、その時の卒業記念写真に「神風」と書いた手ぬぐいを頭に締めた写真が残っています。

卒業後はどうするか悩みました。女でもお国のために仕事をしたいと思いついたのが、鳥取日赤看護婦の道でした。高等女学校卒業が条件でした。受験し、合格しました。昭和20年4月から日本赤十字社鳥取県支部看護看護婦養成所併設の看護教員養成所に入所しました。同級生は100人。上級生のクラスも100人。3棟の寄宿舎は満杯でした。



研究会で語る田中郁子さん（右）

看護教育も寮生活も軍隊式でした。教室は寄宿舎のつづき、平屋のバラック建てでした。入所して間もなく、病院は舞鶴海軍病院の分院となり負傷兵が転院してきました。

1年生は鳥取駅から病院まで患者を担架で運びました。多くの負傷兵の化膿した傷口にうじ虫がわいていました。空襲警報が発令されるたびに病院に出て負傷兵を防空壕に運ぶ手伝いをしました。空襲から医薬品を守るために那岐の民家に疎開させたときに手伝った記憶があります。終戦の日の混乱は目に余るものがありました。

戦争に負けて今後どうなるかわからぬ不安と食糧難、物資不足のためか、同級生は30人も辞めてしまいました。私は、故郷にかえっても、6人兄弟の一番上で、食料難はおなじ、働くところもなく、仕方なくそのまま我慢することにしました。

しばらくして、大阪で戦災にあった大分県支部の委託生が30人鳥取に来て、また100人となり、一緒に勉強することになりました。軍隊式の生活から一変し、不安定ながら授業が始まったように思います。

養護教員は看護婦と併設の養成所でしたから、卒業時は県から免状をいただきました。

保健婦は市町村の実習を受けていましたので、県の検定試験で合格しました。

昭和22年3月 無事卒業しました。大分県支部の委託生も大分県にかえり19人が助産婦養成所の生徒になり、あと50人が看護婦・保健婦・養護教員としてそれぞれの故郷にかえり就職しました。

田中さんは、「人生で何があっても耐える力をもったし、世の中に異変があっても、耐えていけます。ここまで長生きできたことは、若いころの体験

と職場の皆様、家族の支えがあったことに感謝します。」と結んだ。

記…渡部一恵



「今後のイベント」

●生涯現役まつり&歴史大河ドラマ選考会

「場所」鳥取市とりぎん文化会館

「日時」9月5日（日）10時～16時

12時前後に「碧川かた」の出版があり、アミュー（3人のグループ）のフルート・ギター・「赤とんぼ」「霜の朝」の歌があり、午後は今年の候補作の発表と選考会があります。

●次回 13回研究会は米子です。

「場所」米子市立図書館2階

3・4研修室（1時から借りてます）

「日時」9月25日（金）

午後1時00分～2時00分

図書館玄関集合 天神町ウオーキング

※歩きやすい靴でご参加ください。

午後2時頃～3時頃

「研究会」テーマ「織田正三氏と碧川家」

マスク着用で、どなたでも参加できます

ので気軽においでください。